

令和6年度（2024年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

| 教科            | 国語  | 科目（単位数）  | 論理国語（2） | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
|---------------|---|--|---------|----|---|----|------|
| 学習目標          | (1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・（知識及び技能）<br>(2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・（思考力、判断力、表現力）<br>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・（学びに向かう力、人間性等） |  |         |    |   |    |      |
| 評価基準          | 知識・技能   | 考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割  |         |    |   |    |      |
|               | 思考・判断・表現  | 考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割  |         |    |   |    |      |
|               | 主体的に学習に向かう態度  | プリント・課題・授業等への取り組み状況 2割～3割  |         |    |   |    |      |
| 期間            | 単元（学習内容）  | 学習の到達目標  |         |    |   |    |      |
| 年度初～1学期期末考査   | 「具体」から「抽象」へ（森博嗣）  | (知) 抽象的に表現することが対象の本質をつかむことにつながることを理解し、具体化や連想のような思考方法とも関連づけて考えることができる。<br>(思) 日常生活の中から抽象的思考の例を適切に挙げ、抽象的思考の利点がわかるように説明できる。<br>(学) 文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとする。  |         |    |   |    |      |
|               | 手の変幻（清岡卓行）  | (知) 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。「逆説」「アイロニー」という語が意味する内容を、文脈に沿って読み取り、筆者の意図を具体的に説明できる。<br>(思) 筆者の「芸術」のとらえ方を、文章中の表現をもとに的確に読み取ったうえで、そのとらえ方に対する自分の考えを自分の経験も交えながら述べるができる。<br>(学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組む。   |         |    |   |    |      |
| 1学期期末後        | 文章を読み深める/「山月記」（中島敦）   | (知) 作品のストーリーを文脈の中で正確に把握することができる。<br>(思) 作品の展開を踏まえ、人間が虎になるという設定がもたらす効果について、おおむね理解することができる。<br>(学) 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察しこれまでの学習を生かして考える。  |         |    |   |    |      |
| ～2学期中間考査      | 〈近代〉の入口と出口の間  | (知) 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解することができる。<br>(思) 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈することができる。<br>(学) 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとする。                            |         |    |   |    |      |
| ～2学期期末考査      | 探究の扉—比べ読み/科学の現場（坂井克之）・科学と生命（中屋敷均）   | (知) 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。<br>文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解することができる。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えることができる。<br>(学) 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとする。 |         |    |   |    |      |
| ～3学期学年末考査     | 野生の「クジラ」と人間の「鯨」（関陽子）  | (知) 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うことができる。<br>(思) 「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容を解釈することができる。<br>(学) 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとする。  |         |    |   |    |      |
| 学年末考査後        | 「内的成長」社会へ（上田知行）   | (知) 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。<br>(思) 「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容を解釈することができる。<br>(学) 文章の内容を踏まえて、個人と社会の関係について粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとする。                       |         |    |   |    |      |
| 使用教材（教科書・副教材） | 教科書：「論理国語」（数研出版） 副教材：「名作を味わう定番小説選」（数研出版）「読解評論文キーワード 改訂版頻出270語&テーマ理解&読解演習540題」（筑摩書房）「大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000」（尚文出版）「新訂総合国語便覧」（第一学習社）「グラusstep現代文2.5」（尚文出版）  |  |         |    |   |    |      |
| 学習方法          | 予習・授業・復習のサイクルの徹底。<br>（予習で、本文を読み、わからない言葉を辞書で引いてくる。授業で内容を深く読解し書き手の意図を考える）   |  |         |    |   |    |      |
| 評価方法          | (知) 考査・プリント・課題等<br>(思) 考査・プリント・課題等<br>(学) プリント・課題や授業への取り組み状況等   |  |         |    |   |    |      |

| 教科             | 国語   | 科目（単位数）   | 古典探究(3) | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
|----------------|--|---|---------|----|---|----|------|
| 学習目標           | (1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係づけながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・(知識及び技能)<br>(2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方に触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・(思考力、判断力、表現力)<br>(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・(学びに向かう力、人間性) |   |         |    |   |    |      |
| 評価基準           | 知識・技能  | 考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割   |         |    |   |    |      |
|                | 思考・判断・表現   | 考査 7割～8割、プリント・課題等 2割～3割   |         |    |   |    |      |
|                | 主体的に学習に向かう態度   | プリント・課題・授業等への取り組み状況 2割～3割   |         |    |   |    |      |
| 期間             | 単元（学習内容）   | 学習の到達目標   |         |    |   |    |      |
| 年度初～1学期期末考査    | 大江山 十訓抄  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。<br>(学) 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。                     |         |    |   |    |      |
|                | 酒虫 聊齋志異  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。<br>(学) 酒虫が劉氏にとって禍福のどちらであったかについて、話し合いにおいて積極的に意見を発表している。          |         |    |   |    |      |
|                | 初冠 伊勢物語  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。[A(1)エ]<br>(学) 粘り強く「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌を比較し、学習課題に沿って類似点・相違点を整理しようとしている。 |         |    |   |    |      |
|                | 史伝 鴻門之会、四面楚歌、項王自刎  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。                      |         |    |   |    |      |
| 1学期期末後～2学期中間考査 | すさまじきもの 枕草子  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。  |         |    |   |    |      |
|                | 東路の道の果て 更級日記   | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 積極的に作者の心情をたえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。   |         |    |   |    |      |
|                | 思想 性善 孟子<br>性悪 荀子<br>侵官之害 韓非子<br>無用之用 老子   | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。<br>(学) 孟子と荀子の思想に見られる類似点と相違点を粘り強く考察し、主体的に文章に表そうとしている。            |         |    |   |    |      |
| ～2学期期末考査       | 光源氏誕生、小柴垣のもと 源氏物語  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。<br>(学) 登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。                  |         |    |   |    |      |
|                | 文章 漁父辞 屈原  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 屈原と漁父との問答に見られるそれぞれの考え方の違いについて、粘り強く考察し、主体的に説明しようとしている。                                    |         |    |   |    |      |
|                | ゆく河の流れ 方丈記   | (知) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。   |         |    |   |    |      |
| ～3学期学年末考査      | 花は盛りに 徒然草  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 粘り強く本文の内容を読み解き、学習の見通しをもって作者の考えを説明しようとしている。   |         |    |   |    |      |
|                | 漢詩 中国の詩  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 漢詩の詩型・押韻・対句について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。   |         |    |   |    |      |
|                | 道長の剛胆 大鏡   | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。<br>(学) 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。                                     |         |    |   |    |      |
| 学年末考査後         | 忠度の都落ち 平家物語  | (知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。<br>(学) 忠度の心情について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。                                     |         |    |   |    |      |
|                | 和歌   | (知) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。<br>(思) 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。<br>(学) 学習課題に沿って、粘り強く各句のおもしろみや味わいを考察し、自分の考えを深めようとしている。                     |         |    |   |    |      |
| 使用教材（教科書・副教材）  | 教科書：「古典探究」（数研出版）、副教材：「読解を大切にす体系古典文法九訂版」（数研出版）、「漢文必携」（数研出版）、「新訂総合国語便覧」（第一学習社）、「Key&Point古文単語300+30」（いづな書店）、「新訂版力をつける古典ステップ2」（数研出版）  |   |         |    |   |    |      |
| 学習方法           | 予習・授業・復習のサイクルの徹底。<br>（予習で、古文単語を辞書で引き、現代語訳をしてくる。授業で古典文法、漢文句法、現代語訳の仕方等を理解し、覚える。）   |   |         |    |   |    |      |
| 評価方法           | (知) 考査・プリント・課題等<br>(思) 考査・プリント・課題等<br>(学) プリント・課題や授業への取り組み状況等☑   |   |         |    |   |    |      |

| 教科   | 地理歴史  | 科目(単位数)  | 地理総合(2) | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
|------|---|--|---------|----|---|----|------|
| 学習目標 | 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。<br>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地域の課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。<br>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。<br>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国への愛着、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。 |  |         |    |   |    |      |
| 評価基準 | 知識・技能 ①定期考査の知識・技能：8割 ②復習テスト：2割<br>思考・判断・表現 ①定期考査の思考・判断・表現：8割 ②ワークシート：2割<br>主体的に学習に向かう態度 ①定期考査：2割 ②復習テスト：5割 ③提出物(ワークシート、課題)：3割   |  |         |    |   |    |      |
| 期間   | 単元(学習内容)  | 学習の到達目標  |         |    |   |    |      |
| 1学期  | 第1編第1章<br>私たちが暮らす世界   | (知)・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。<br>・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。<br>(思)・地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(学)・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。  |         |    |   |    |      |
|      | 第1編第2章<br>地図や地理情報システムの役割  | (知)・地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。<br>・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。<br>(思)・さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。<br>・さまざまな統計数値を、適切な主題図で表現している。<br>・GISを操作し、計測結果や主題図を表示している。<br>(学)・紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえようとしている。  |         |    |   |    |      |
| 2学期  | 第1編第3章<br>資料から読み取る現代世界  | (知)・交通・通信技術の発展と国境をこえたさまざまな結び付きについて、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。<br>・交通・通信手段や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴などについて、地図や図表の読み取りを通じて理解を深めている。<br>・交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>(思)・交通・情報通信が国境をこえて結び付き、その結び付きがますます強固になっていることについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・貿易や観光などにみられる国境をこえたモノや人の動きについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(学)・交通・通信の発達による社会の変化と、それとともに起こるようになった諸問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。<br>・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていることに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 |         |    |   |    |      |
|      | 第2編第1章<br>人々の生活文化と多様な地理的環境  | (知)・世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。<br>・さまざまな産業とそれらの分布について基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。<br>・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>(思)・文化の違いがなぜ生じるかということについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・世界各地で多様な地形や気候・植生がみられることについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・さまざまな産業の特徴や産業立地、それらの変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・地域の文化や人々の暮らし、産業の違いを、それぞれの地域の自然環境との関連に着目しながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(学)・文化の多様性と異なる文化の理解や共存に関して関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。<br>・さまざまな自然環境に対応した人々の生活や産業の工夫について関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。<br>・技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究                                       |         |    |   |    |      |
|      | 第2編第2章<br>さまざまな地球的課題と国際協力   | (知)・さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。<br>・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。<br>(思)・地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(学)・各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。   |         |    |   |    |      |
| 3学期  | 第3編第1章<br>自然環境と防災   | (知)・変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。<br>・多発している日本列島の自然災害とその克服について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。<br>・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>(思)・日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・日本列島のさまざまな自然災害と防災対策について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(学)・日本列島の豊かな自然環境と近年増大している自然災害に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。<br>・深刻な日本列島の自然災害と防災に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。  |         |    |   |    |      |
|      | 第3編第2章<br>生活圏の調査と地域の展望  | (知)・地域調査の手順や注意すべきことを理解している。<br>・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。<br>(思)・身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿ってとらえ、明らかになったことを適切に表現している。<br>(学)・身近な地域の特徴を明らかにするために、意欲的に地域調査に取り組もうとしている。  |         |    |   |    |      |
| 使用教材 | 教科書：『地理総合』（東京書籍）、『詳解現代地図最新版』（二宮書店）<br>副教材：『新課程版クシード地理2024』（啓隆社）、『新詳地理資料COMPLETE2024』（帝国書院）  |  |         |    |   |    |      |
| 学習方法 | 授業・復習を中心に行う。自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのまませず、積極的に質問すること。定期的に復習テストやレポートを課し、評価する。   |  |         |    |   |    |      |
| 評価方法 | (知) ①定期考査の知識・技能：8割 ②復習テスト：2割<br>(思) ①定期考査の思考・判断・表現：8割 ②ワークシート：2割<br>(学) ①定期考査：2割 ②復習テスト：5割 ③提出物(ワークシート、課題)：3割   |  |         |    |   |    |      |

| 教科                | 地理歴史   | 科目（単位数）   | 歴史総合（2） | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
|-------------------|--|---|---------|----|---|----|------|
| 学習目標              | 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。  |   |         |    |   |    |      |
| 評価基準              | 知識・技能  | 考査7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）  |         |    |   |    |      |
|                   | 思考・判断・表現   | 考査7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）  |         |    |   |    |      |
|                   | 主体的に学習に向かう態度   | 考査7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）  |         |    |   |    |      |
| 期間                | 単元（学習内容）   | 学習の到達目標   |         |    |   |    |      |
| 1 学期              | 第1章 近代化への胎動  | <p>（知）18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する問いに対して、歴史的なものの見</p> <p>（学）18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>   |         |    |   |    |      |
|                   | 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成  | <p>（知）19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p> |         |    |   |    |      |
|                   | 第3章 アジアの変容と日本の近代化  | <p>（知）19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>  |         |    |   |    |      |
| 2 学期              | 第4章 帝国主義の時代  | <p>（知）帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係、またアジア・日本での国民国家形成の動きに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係、またアジア・日本での国民国家形成の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係、またアジア・日本での国民国家形成の動きに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>                            |         |    |   |    |      |
|                   | 第5章 第一次世界大戦と大衆社会   | <p>（知）第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>  |         |    |   |    |      |
|                   | 第6章 経済危機と第二次世界大戦   | <p>（知）世界恐慌をきっかけとした世界各國の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）世界恐慌をきっかけとした世界各國の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）世界恐慌をきっかけとした世界各國の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>                               |         |    |   |    |      |
| 3 学期              | 第7章 冷戦と脱植民地化   | <p>（知）冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>  |         |    |   |    |      |
|                   | 第8章 多極化する世界  | <p>（知）石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>  |         |    |   |    |      |
|                   | 第9章 グローバル化と現代世界  | <p>（知）知識・技能 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。</p> <p>（思）冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。</p> <p>（学）冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。</p>                      |         |    |   |    |      |
| 使用教材<br>(教科書・副教材) | <p>教科書：『詳述歴史総合』（実教出版）</p> <p>副教材：『詳述歴史総合 徹底整理演習ノート』（実教出版）</p> <p>『新詳 歴史総合』（浜島書店）</p>   |   |         |    |   |    |      |
| 学習方法              | <p>1単位（週1回）の授業ですが、考査、行事や担当者の出張等を考慮すると実際の授業は月に2～3回程度にとどまると思われます。（進度予定が大幅に変更される可能性もあります）。それだけに、<b>予習・授業・復習のサイクルを確実に実行</b>してください。<b>授業は、予習が終わっていることを前提として行われます。</b>予習時は教科書の熟読や『徹底整理演習ノート』の記入、時には動画視聴などに取り組んでいただきます。そして授業や復習の段階で、歴史を概観しつつその流れの中に重要単語（歴史用語）を位置づけられるような意識を持つとよいでしょう。</p> |   |         |    |   |    |      |
| 評価方法              | <p>「歴史総合」の成績は「歴総合・日本史」と「歴史総合・世界史」の評価を合わせる形で算出されます。</p> <p>（知）考査7割～8割・平常点2割～3割（提出物等）</p> <p>（思）考査7割～8割・平常点3割～2割（提出物等）</p> <p>（学）考査7割～8割・平常点3割～2割（提出物等）</p>  |   |         |    |   |    |      |

| 教科            | 理科   | 科目(単位数)   | 歴史総合・日本史(1) | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
|---------------|--|---|-------------|----|---|----|------|
| 学習目標          | 社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動をととして、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指す。  |   |             |    |   |    |      |
| 評価基準          | 知識・技能  | 考査7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)  |             |    |   |    |      |
|               | 思考・判断・表現   | 考査7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)  |             |    |   |    |      |
|               | 主体的に学習に向かう態度   | 考査7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)  |             |    |   |    |      |
| 期間            | 単元(学習内容)   | 学習の到達目標   |             |    |   |    |      |
| 1学期           | 第1章 近代化への胎動  | (知) 18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 18世紀ごろのアジア諸国と欧米諸国との貿易や国際関係、また両地域における社会・文化に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。   |             |    |   |    |      |
|               | 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成  | (知) 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する基本的な知識を、我が国の歴史と関連づけて、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて我が国の歴史と関連づけて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 19世紀の欧米諸国における国民国家形成に向けた動き、またイギリスの産業革命をきっかけとした19世紀の世界経済の変化に関する問いに対して、我が国の歴史と関連づけて、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。 |             |    |   |    |      |
|               | 第3章 アジアの変容と日本の近代化  | (知) 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 19世紀のアジアや日本に進出した欧米諸国とそれに対するアジア諸国と日本の対応に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。  |             |    |   |    |      |
| 2学期           | 第4章 帝国主義の時代  | (知) 帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係、またアジア・日本での国民国家形成の動きに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係、またアジア・日本での国民国家形成の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 帝国主義の時代における欧米諸国とアジア・アフリカとの関係、またアジア・日本での国民国家形成の動きに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。  |             |    |   |    |      |
|               | 第5章 第一次世界大戦と大衆社会   | (知) 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 第一次世界大戦をきっかけとした国際関係の変化、また第一次世界大戦後の世界各国の社会の形成に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。  |             |    |   |    |      |
|               | 第6章 経済危機と第二次世界大戦   | (知) 世界恐慌をきっかけとした世界各国の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 世界恐慌をきっかけとした世界各国の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 世界恐慌をきっかけとした世界各国の政治的变化、また第二次世界大戦をきっかけとした国際社会の変化に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。   |             |    |   |    |      |
| 3学期           | 第7章 冷戦と脱植民地化   | (知) 冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 冷戦下の世界における国際関係の変化、またアジア・アフリカ諸国や日本の動きに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。  |             |    |   |    |      |
|               | 第8章 多極化する世界  | (知) 石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 石油危機をきっかけとした世界経済の変化、また1970年代以降の世界の多極化の動きに関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。  |             |    |   |    |      |
|               | 第9章 グローバル化と現代世界  | (知) 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する基本的な知識を、複数の史・資料を活用し十分に理解できている。<br>(思) 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する問いに対して、歴史的なものの見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。<br>(学) 冷戦終結後の地域・民族紛争やグローバル化による政治・経済の変化、また現在、世界が直面している課題に関する問いに対して、粘り強く自らの答えを出そうとしている。単元の学習を適切に振り返り、学習改善しようとしている。  |             |    |   |    |      |
| 使用教材(教科書・副教材) | 教科書:『詳述歴史総合』(美教出版)<br>副教材:『詳述歴史総合 徹底整理演習ノート』(美教出版)<br>『新詳 歴史総合』(浜島書店)  |   |             |    |   |    |      |
| 学習方法          | 1単位(週1回)の授業ですが、考査、行事や担当者の出張等を考慮すると実際の授業は月に2～3回程度にとどまると考えられます(進度予定が大幅に変更される可能性もあります)。それだけに、 <b>予習・授業・復習のサイクルを確実に実行してください。授業は、予習が終わっていることを前提として行われます。</b> 予習時は教科書の熟読や『マイノート』の記入、時には動画視聴などに取り組んでいただきます。そして授業や復習の段階で、歴史を概観しつつその流れの中に重要単語(歴史用語)を位置づけられるような意識を持つとよいでしょう。 |   |             |    |   |    |      |
| 評価方法          | (知) 考査7割～8割・平常点2割～3割(提出物等)<br>(思) 考査7割～8割・平常点3割～2割(提出物等)<br>(学) 考査7割～8割・平常点3割～2割(提出物等)<br>ただし、「歴史総合」の成績は「歴史総合・日本史」と「歴史総合・世界史」の評価と合わせる形で算出されます。   |   |             |    |   |    |      |

| 教科                     | 数学   | 科目（単位数）   | 数学Ⅱ(2)、数学A(1)、数学B(1)、数学C(1)   | 学年 | 2 | 類型 | 文系コース |
|------------------------|--|---|---|----|---|----|-------|
| 学習目標                   | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、次のような数学的に考える資質・能力を身に付ける。<br>(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能<br>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力<br>(3) 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力<br>(4) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力<br>(5) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度<br>(6) 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度   |   |   |    |   |    |       |
| 評価基準                   | 知識・技能  | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ |   |    |   |    |       |
|                        | 思考・判断・表現   | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ |   |    |   |    |       |
|                        | 主体的に学習に向かう態度   | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ |   |    |   |    |       |
| 期間                     | 単元（学習内容）   |   | 学習の到達目標   |    |   |    |       |
| 4・5月<br>1学期<br>中間考査    | 数Ⅱ 第2章<br>複素数と方程式  |   | (知) 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。<br>(思) 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。                    |    |   |    |       |
|                        | 数Ⅱ 第3章<br>図形と方程式   |   | (知) 座標を用いて、平面上の線分を内分する・、外分する点の位置や二点間の距離を求めることができる。<br>(思) 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。 |    |   |    |       |
| 5・6月<br>1学期<br>期末考査    | 数学C 第4章<br>式と曲線  |   | (知) 放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解すること。<br>(思) 放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察すること。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                          |    |   |    |       |
|                        | 数学C 第3章<br>複素数平面   |   | (知) 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味、ド・モアブルの定理を理解する。<br>(思) 複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。       |    |   |    |       |
| 7・8・9月<br>2学期<br>中間考査  | 数C 第1章<br>平面上のベクトル   |   | (知) 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解する。<br>(思) 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                        |    |   |    |       |
|                        | 数C 第2章<br>空間のベクトル  |   | (知) ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解する。<br>(思) ベクトルやその内積に基本的な性質などを用いて、平面付嫌空間図形の性質を見出し、多面的に考察したりする。<br>(学) 粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。                                       |    |   |    |       |
| 10・11月<br>2学期<br>期末考査  | 数B 第1章<br>数列   |   | (知) 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。<br>(思) 自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。          |    |   |    |       |
|                        | 数Ⅱ 第1章<br>微分法と積分法  |   | (知) 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解する。<br>(思) 関数とその導関数との関係について考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。  |    |   |    |       |
| 12・1月<br>3学期<br>学年末考査  | 数B 第4章<br>統計的な推測   |   | (知) 標本調査の考え方について理解を深める。<br>(思) 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。   |    |   |    |       |
|                        | 数A 第3章<br>数学と人間の活動<br>(整数分野を中心に)   |   | (知) 数量や図形に関する概念などと、数学的に解釈することのかわりについて関りについて理解する。<br>(思) 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                             |    |   |    |       |
| 2・3月                   | 数学ⅠA・ⅡBC<br>総復習  |   | (知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。<br>(思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。<br>(学) 数学のよさを認識し、せっきょ0区的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。    |    |   |    |       |
|                        | 4・5月<br>3年1学期<br>中間考査  |   | (知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。<br>(思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。<br>(学) 数学のよさを認識し、せっきょ0区的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。    |    |   |    |       |
| 5月・6月<br>3年1学期<br>期末考査 | 数学ⅠA・ⅡBC<br>総復習  |   | (知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。<br>(思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。<br>(学) 数学のよさを認識し、せっきょ0区的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。    |    |   |    |       |
| 使用教材<br>(教科書・副教材)      | ① 教科書 : 「高等学校数学A、Ⅱ、B、C、Ⅲ」(数研出版)<br>② 教科書理解補助参考書: 「数学Ⅰ・A、Ⅱ・B、Ⅲ・C 入門問題精講」(旺文社)<br>③ 反復練習用問題集 : 「4プロセス 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、Ⅲ+C」(数研出版)<br>④ 網羅系参考書・問題集: 「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、Ⅲ+C」(数研出版)※デジタル版も含む<br>⑤ 総復習用問題集(模試対策用): 進研WINSTEP 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C Basic、<br>進研WINSTEP Division高2数学vo1(7月模試),vo2(11月模試),vo3(1月模試)   |   |   |    |   |    |       |
| 学習方法                   | (1) 教科書を読み、定義を理解するために具体例に触れる。そのときに、書いて数式や記号に慣れる。最初は、写して手で慣れることも大切。①②を活用<br>(2) 定理や公式の証明を理解し、何も見ずに証明を再現できるようになる。最初は、写してもよい。※(2)は後回しにしてもよい。①②を活用<br>(3) 定理や公式の使い方を身に付けるために、問題を解く。速く正確に解けるように反復練習をする。※問題を解くために、定理や公式を覚えるわけではない。③を活用<br>(4) 定理や公式を活用することで解決できる応用問題を解く。解法を理解したうえで、解法のポイントとなる箇所を覚えていく。①④を活用<br>(5) 定理や公式など複数のことを使い、試行錯誤をしないと解けないような発展問題に取り組み、総合的な数学の力や、思考力を培う。④⑤を活用<br>④にはすべての例題に解説動画がありますので、活用してください。①にもすべての例、例題、応用例題の解説動画があります。<br>(6) 教師・友人への質問や対話を通じて理解が深まってきます。1人で考えることも大切ですが、積極的にコミュニケーションをとりましょう。 |   |   |    |   |    |       |
| 評価方法                   | (知) 考査のαが約5割、考査のβが約3割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価<br>(思) 考査のαが約5割、考査のβが約3割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価<br>(学) 考査のαが約5割、考査のβが約3割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況約2割を目安に総合的に評価   |   |   |    |   |    |       |

| 教科                     | 数学   | 科目(単位数)  | 数学Ⅱ(2)、数学Ⅲ(1)、数学A(1)、数学B(1)、数学C(1) | 学年 | 2 | 類型 | 理系コース |
|------------------------|--|--|------------------------------------|----|---|----|-------|
| 学習目標                   | 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、次のような数学的に考える資質・能力を身に付ける。<br>(1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能<br>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力<br>(3) 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力<br>(4) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力<br>(5) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度<br>(6) 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度   |  |                                    |    |   |    |       |
| 評価基準                   | 知識・技能  | ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度<br>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度<br>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度  |                                    |    |   |    |       |
|                        | 思考・判断・表現   | ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度<br>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度<br>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度  |                                    |    |   |    |       |
|                        | 主体的に学習に向かう態度   | ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度<br>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度<br>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に向かう態度  |                                    |    |   |    |       |
| 期間                     | 単元(学習内容)   | 学習の到達目標  |                                    |    |   |    |       |
| 4・5月<br>1学期<br>中間考査    | 数Ⅱ 第2章<br>複素数と方程式  | (知) 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。<br>(思) 式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。                                 |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数Ⅱ 第3章<br>図形と方程式   | (知) 座標を用いて、平面上の線分を内分する・、外分する点の位置や二点間の距離を求めることができる。<br>(思) 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。              |                                    |    |   |    |       |
| 5・6月<br>1学期<br>期末考査    | 数学C 第4章<br>式と曲線  | (知) 放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解すること。<br>(思) 放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察すること。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                                       |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数学C 第3章<br>複素数平面   | (知) 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味、ド・モアブルの定理を理解する。<br>(思) 複素数平面における図形の移動などと関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                    |                                    |    |   |    |       |
| 7・8・9月<br>2学期<br>中間考査  | 数C 第1章<br>平面上のベクトル   | (知) 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解する。<br>(思) 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                                     |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数C 第2章<br>空間のベクトル  | (知) ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解する。<br>(思) ベクトルやその内積に基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見出したり、多面的に考察したりする。<br>(学) 粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。   |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数B 第1章<br>数列   | (知) 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。<br>(思) 自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。                       |                                    |    |   |    |       |
| 10・11月<br>2学期<br>期末考査  | 数Ⅱ 第1章<br>微分法と積分法  | (知) 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解する。<br>(思) 関数とその導関数との関係について考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。   |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数B 第4章<br>統計的な推測   | (知) 標本調査の考え方について理解を深める。<br>(思) 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。  |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数A 第3章<br>数学と人間の活動<br>(整数分野を中心に)   | (知) 数量や図形に関する概念などを、数学的に解釈することのかわりについて関心について理解する。<br>(思) 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。  |                                    |    |   |    |       |
| 12・1月<br>3学期<br>学年末考査  | 数学Ⅲ 第1章<br>関数  | (知) 簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。<br>(思) 既に学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                                     |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数学Ⅲ 第2章<br>極限  | (知) 数列の極限について理解し、数列 $\{r_n\}$ の極限などを基に簡単な数列の極限を求めることができる。<br>(思) 式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。                     |                                    |    |   |    |       |
|                        | 数学Ⅲ 第3章<br>微分法   | (知) 微分の可能性、関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることができる。<br>(思) 関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や二次導関数の関係について考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。                          |                                    |    |   |    |       |
| 4・5月<br>3年1学期<br>中間考査  | 数学Ⅲ 第4章<br>微分法の応用  | (知) 導関数を用いて曲線の接線の方程式、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概形を描くことができる。<br>(思) 関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。<br>(学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。              |                                    |    |   |    |       |
| 5月・6月<br>3年1学期<br>期末考査 | 数学Ⅲ 第5章<br>積分法とその応用  | (知) 置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。<br>(思) 関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察する。<br>(学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。 |                                    |    |   |    |       |
| 使用教材<br>(教科書・副教材)      | ① 教科書 : 「高等学校数学 A、Ⅱ、B、C、Ⅲ」(数研出版)<br>② 教科書理解補助参考書: 「数学Ⅰ・A、Ⅱ・B、Ⅲ・C 入門問題精講」(旺文社)<br>③ 反復練習用問題集 : 「4プロセス 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、Ⅲ+C」(数研出版)<br>④ 網羅系参考書・問題集: 「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、Ⅲ+C」(数研出版)※デジタル版も含む<br>⑤ 総復習用問題集(模試対策用): 進研WINSTEP 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C Basic、<br>進研WINSTEP Division高2数学vo1(7月模試)、vo2(11月模試)、vo3(1月模試)  |  |                                    |    |   |    |       |
| 学習方法                   | (1) 教科書を読み、定義を理解するために具体例に触れる。そのときに、書いて数式や記号に慣れる。最初は、写して手で慣れることも大切。 ①②を活用<br>(2) 定理や公式の証明を理解し、何も見ずに証明を再現できるようになる。最初は、写してもよい。 ※(2)は後回しにしてもよい。 ①②を活用<br>(3) 定理や公式の使い方を身に付けるために、問題を解く。速く正確に解けるように反復練習をする。※問題を解くために、定理や公式を覚えるわけではない。③を活用<br>(4) 定理や公式を活用することで解決できる応用問題を解く。解法を理解したうえで、解法のポイントとなる箇所を覚えていく。 ①④を活用<br>(5) 定理や公式など複数のことを使い、試行錯誤をしないと解けないような発展問題に取り組み、総合的な数学の力や、思考力を培う。④⑤を活用<br>④にはすべての例題に解説動画がありますので、活用してください。①にもすべての例、例題、応用問題の解説動画があります。<br>(6) 教師・友人への質問や対話を通じて理解が深まってきます。1人で考えることも大切ですが、積極的にコミュニケーションをとりましょう。 |  |                                    |    |   |    |       |
| 評価方法                   | (知) 考査の $\alpha$ が約5割、考査の $\beta$ が約3割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価<br>(思) 考査の $\alpha$ が約5割、考査の $\beta$ が約3割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価<br>(学) 考査の $\alpha$ が約5割、考査の $\beta$ が約3割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価   |  |                                    |    |   |    |       |

令和6年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

| 教科                    | 理科   | 科目(単位数)  | 生物基礎(2) | 学年 | 2 | 類型 | 文系 |
|-----------------------|--|--|---------|----|---|----|----|
| 学習目標                  | 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。<br>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能<br>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力<br>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度<br>(4) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度 |  |         |    |   |    |    |
| 評価基準                  | 知識・技能  | 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |         |    |   |    |    |
|                       | 思考・判断・表現   | 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |         |    |   |    |    |
|                       | 主体的に学習に向かう態度   | 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |         |    |   |    |    |
| 期間                    | 単元(学習内容)   | 学習の到達目標  |         |    |   |    |    |
| ～1学期<br>中間考査          | 第1章<br>生物の特徴   | (知) 生物は多様でありながら共通性をもっており、生物が代謝によってエネルギーを取り出して活動していることを理解する。<br>(思) 多様な生物の共通性を根拠に、生物と無生物の違いについて考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                               |         |    |   |    |    |
| ～1学期<br>期末考査          | 第2章<br>遺伝子とそのはたらき  | (知) DNAが遺伝情報を担う物質であり、その複製・分配によって遺伝情報が伝えられ、その情報をもとにタンパク質が合成されることを理解する。<br>(思) DNAの遺伝情報の違いと個体の形質の違いの関係性について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                    |         |    |   |    |    |
| ～2学期<br>中間考査          | 第3章<br>ヒトの体内環境の維持<br>1. 体内での情報伝達と調節<br>2. 体内環境の維持のしくみ  | (知) 生物には体内環境を維持する仕組みがあり、自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。<br>(思) 体内環境を維持するための血液の役割や、自律神経系と内分泌系の協働について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                                |         |    |   |    |    |
| ～2学期<br>期末考査          | 第3章<br>ヒトの体内環境の維持<br>3. 免疫のはたらき  | (知) 免疫とそれにかかわる細胞のはたらきについて理解する。<br>(思) 免疫のしくみを利用したインフルエンザの予防接種や血清療法について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。   |         |    |   |    |    |
| ～3学期<br>学年末考査         | 第4章<br>生物の多様性と生態系<br>1. 植生と遷移<br>2. 植生の分布とバイオーム  | (知) 陸上には様々な植生がありそれらは移り変わっていくことを理解する。<br>気候を反映して様々なバイオームが成立することを理解する。<br>(思) 植生遷移の方向性について考察することができる。<br>気候の変化がバイオームに及ぼす影響について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。 |         |    |   |    |    |
| ～年度末                  | 第4章<br>生物の多様性と生態系<br>3. 生態系と生物の多様性<br>4. 生態系のバランスと保全   | (知) 生態系における物質の循環とともにエネルギーが移動することを理解する。<br>生態系のバランスについて理解する。<br>(思) 科学的な知識を基に、環境問題と生態系の保全の重要性について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                             |         |    |   |    |    |
| 使用教材<br>(教科書・副<br>教材) | 教科書：「生物基礎」(数研出版)<br>資料集：「新課程フォトサイエンス生物図録」(数研出版)<br>問題集：「リードLightノート生物基礎」(数研出版)   |  |         |    |   |    |    |
| 学習方法                  | 授業・復習を中心に行う。授業は解説と問題演習を5：5で行う。問題演習を通して自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的小テストやレポートを課し、評価する。   |  |         |    |   |    |    |
| 評価方法                  | (知) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(思) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(学) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |  |         |    |   |    |    |

令和6年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

| 教科                    | 理科   | 科目(単位数)  | 生物基礎(2)・生物(2) | 学年 | 2 | 類型 | 理系 |
|-----------------------|--|--|---------------|----|---|----|----|
| 学習目標                  | 生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。<br>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能<br>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力<br>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度<br>(4) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度 |  |               |    |   |    |    |
| 評価基準                  | 知識・技能  | 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |               |    |   |    |    |
|                       | 思考・判断・表現   | 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |               |    |   |    |    |
|                       | 主体的に学習に向かう態度   | 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |               |    |   |    |    |
| 期間                    | 単元(学習内容)   | 学習の到達目標  |               |    |   |    |    |
| ～1学期<br>中間考査          | 生物基礎<br>第1章<br>生物の特徴   | (知) 生物は多様でありながら共通性をもっており、生物が代謝によってエネルギーを取り出して活動していることを理解する。<br>(思) 多様な生物の共通性を根拠に、生物と無生物の違いについて考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。   |               |    |   |    |    |
|                       | 生物基礎<br>第2章<br>遺伝子とそのはたらき  | (知) DNAが遺伝情報を担う物質であり、その複製・分配によって遺伝情報が伝えられ、その情報をもとにタンパク質が合成されることを理解する。<br>(思) DNAの遺伝情報の違いと個体の形質の違いの関係性について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。  |               |    |   |    |    |
| ～1学期<br>期末考査          | 生物基礎<br>第3章<br>ヒトの体内環境の維持  | (知) 生物には体内環境を維持する仕組みがあること及び免疫の仕組みについて理解する。<br>(思) 体内環境を維持するための血液の役割や、自律神経系と内分泌系の協働について考察することができる。<br>免疫のしくみを利用したインフルエンザの予防接種や血清療法について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。  |               |    |   |    |    |
| ～2学期<br>中間考査          | 生物基礎<br>第4章<br>生物の多様性と生態系  | (知) 陸上には様々な植生がありそれらは移り変わっていくこと、気候を反映して様々なバイオームが成立することを理解する。<br>生態系における物質の循環とともにエネルギーが移動すること、生態系のバランスについて理解する。<br>(思) 植生遷移の方向性と、気候の変化がバイオームに及ぼす影響について考察することができる。<br>科学的な知識を基に、環境問題と生態系の保全の重要性について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。 |               |    |   |    |    |
| ～2学期<br>期末考査          | 生物<br>第1章<br>生物の進化   | (知) 生命の起源や生物が進化してきた道筋について、進化の仕組みと合わせて理解する。<br>(思) 生命の誕生とその後の生物進化を環境条件の変化と関連づけて考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。   |               |    |   |    |    |
| ～3学期<br>学年末考査         | 生物<br>第2章<br>細胞と分子   | (知) 細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴について理解する。<br>生命現象におけるタンパク質の重要性について理解する。<br>(思) 細胞の内部構造とその機能について説明することができる。<br>タンパク質の立体構造と、タンパク質が生命活動で果たす役割について考察することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。   |               |    |   |    |    |
| ～年度末                  | 生物<br>第3章<br>代謝  | (知) 呼吸、光合成におけるエネルギーの変換の仕組みと窒素同化の概要について理解する。<br>(思) 呼吸、光合成、窒素同化の概要と生態系内での役割について説明することができる。<br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。   |               |    |   |    |    |
| 使用教材<br>(教科書・副<br>教材) | 教科書：「生物基礎」「生物」(数研出版)<br>資料集：「新課程フォトサイエンス生物図録」(数研出版)<br>問題集：「リードLightノート生物基礎」「リードLightノート生物」(数研出版)<br>「センサー総合生物」(啓林館)   |  |               |    |   |    |    |
| 学習方法                  | 授業・復習を中心に行う。授業の中で問題演習を扱う。問題演習を通して自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的小テストやレポートを課し、評価する。  |  |               |    |   |    |    |
| 評価方法                  | (知) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(思) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(学) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |  |               |    |   |    |    |

令和6年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

| 教科                    | 理科  | 科目 (単位数)                         | 地学基礎 (2)   | 学年 | 2 | 類型 | 文系 |
|-----------------------|---|----------------------------------|--|----|---|----|----|
| 学習目標                  | 地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解させ、地学的な探究の方法を身につけさせるようにするとともに、地球の自然環境と日常生活や社会との関わりを考えることができるようにする。                                     |                                  |  |    |   |    |    |
| 評価基準                  | 知識・技能   | 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 |  |    |   |    |    |
|                       | 思考・判断・表現  | 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 |  |    |   |    |    |
|                       | 主体的に学習に向かう態度  | 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 |  |    |   |    |    |
| 期間                    | 単元 (学習内容)   |                                  | 学習の到達目標  |    |   |    |    |
| ～1学期<br>中間考査          | 第1編 活動する地球<br>第1章<br>1 地球の形と大きさ<br>2 地球の構造  |                                  | (知) 古代の地球の形と大きさの測定法を理解する。<br><br>(思) 異なる2つの説から地球の形は楕円体であることについて考察することができる。<br><br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                  |    |   |    |    |
| ～1学期<br>期末考査          | 第2章 プレートの運動<br>1 プレートテクトニクスと地殻変動<br>2 プレート運動のしかた<br><br>第3章 地震<br>1 地震 2 地震の分布 3 地震災害<br><br>第4章 火山<br>1 火山活動 2 火成岩<br>3 火山がもたらす恵みと災害 |                                  | (知) プレートの動きと地震活動・火山活動について理解する。<br><br>(思) 地震災害や火山災害の具体例を通して、防災意識を向上させる。<br><br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                     |    |   |    |    |
| ～2学期<br>中間考査          | 第2編 移り変わる地球<br>第1章 地層の形成<br>1 堆積作用と堆積岩<br>2 地層の形成   |                                  | (知) 風化、侵食、堆積作用と地形との関係を理解する。<br><br>(思) 地層累重の法則や堆積構造をもとに、堆積環境について考察することができる。<br><br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                 |    |   |    |    |
| ～2学期<br>期末考査          | 第2章 古生物の変遷と地球環境<br>1 化石と地質時代の区分<br>2 古生物の変遷   |                                  | (知) 化石の意義を理解し地層の対比を行い、地質時代を理解する。<br><br>(思) 地球誕生以来の地球の歴史や生物の進化と地球環境の変化について考察することができる。<br><br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。       |    |   |    |    |
| ～3学期<br>学年末考査         | 第3編 大気と海洋<br>第1章 地球の熱収支<br>1 大気の大気構造<br>2 地球全体の熱収支  |                                  | (知) 大気の組成と気圧および大気の層構造と特徴を理解する。<br><br>(思) 地球のエネルギー収支と温室効果について考察することができる。<br><br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。                    |    |   |    |    |
| ～年度末                  | 第2章 大気・海水の運動<br>1 大気の大循環<br>2 海水の運動<br>3 日本の天気と気象災害   |                                  | (知) 熱の輸送と大気の大循環の関係を理解し、風吹き方を知る。<br><br>(思) 熱の輸送と大気や海水の大循環の関係をを通して風吹き方について各季節の特徴を考察することができる。<br><br>(学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。 |    |   |    |    |
| 使用教材<br>(教科書・副<br>教材) | 教科書：「地学基礎」(数研出版)<br>資料集：「ニューステージ新訂地学図表」(浜島)<br>問題集：「地学基礎研究ノート」(博洋社)   |                                  |  |    |   |    |    |
| 学習方法                  | 授業・復習を中心に行う。授業は解説と問題演習を5：5で行う。問題演習を通して自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的に小テストやレポートを課し、評価する。           |                                  |  |    |   |    |    |
| 評価方法                  | (知) 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(思) 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(学) 考查7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割                  |                                  |  |    |   |    |    |

令和6年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

| 教科                    | 理科   | 科目(単位数)   | 物理基礎(2)・物理(2) | 学年 | 2 | 類型 | 理系 |
|-----------------------|--|---|---------------|----|---|----|----|
| 学習目標                  | 物理や物理現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。<br>(1) 物理の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能<br>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力<br>(3) 物理的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度 |   |               |    |   |    |    |
| 評価基準                  | 知識・技能  | 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割  |               |    |   |    |    |
|                       | 思考・判断・表現   | 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割  |               |    |   |    |    |
|                       | 主体的に学習に向かう態度   | 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割  |               |    |   |    |    |
| 期間                    | 単元(学習内容)   | 学習の到達目標   |               |    |   |    |    |
| ～1学期<br>期末考査          | 総合物理①<br>第1編 力と運動<br>第1章 運動の表し方<br>第2章 運動の法則   | (知) 等加速度直線運動について、物体にはたらく力を理解し、式やグラフを適切に運用できる。<br>物体が力を受けるとき、運動状態はどのようになるかを指摘できる。<br>さまざまな運動をしている物体について運動方程式を立てて考えることができる。<br>力のモーメントについて理解している。   |               |    |   |    |    |
|                       |  | (思) 相対速度について説明できる。<br>等加速度直線運動する物体の様子について説明できる。<br>水平投射や斜方投射の運動の様子を鉛直方向と水平方向に分けて説明できる。<br>グラフから適切な値を読み取ることができる。<br>作用反作用の2力とつりあいの2力の違いを理解し、説明できる。<br>運動方程式を理解し、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。  |               |    |   |    |    |
|                       |  | (学) 日常の運動から速さ、時間、距離についての関係に興味を持ち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。<br>落体の運動、特に水平投射や斜方投射について運動の状態がどのようになっているか理解しようとしている。<br>見ること、触ることができない力に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また、力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。<br>物体の運動状態は受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心を持ち、理解しようとしている。 |               |    |   |    |    |
| ～2学期<br>中間考査          | 総合物理①<br>第1編 力と運動<br>第3章 仕事と力学的エネルギー<br>第4章 運動量の保存   | (知) 運動エネルギー、位置エネルギーについて定義を正しく理解し、計算できる。<br>直線運動、平面運動における運動量保存則を式で表現できる。   |               |    |   |    |    |
|                       |  | (思) エネルギーの定義について説明できる。<br>運動エネルギー変化は物体がされた仕事に等しいことを用いて物体の運動を説明できる。<br>力学的エネルギー保存則、運動量保存則について成立する条件を説明できる。   |               |    |   |    |    |
|                       |  | (学) エネルギーは仕事をする能力を秘めていることに興味を持ち、理解しようとしている。<br>力学的エネルギー保存則について興味関心を持ち、身のまわりの現象と結びつけて考えようとしている。  |               |    |   |    |    |
| ～2学期<br>期末考査          | 総合物理①<br>第1編 力と運動<br>第5章 円運動と万有引力<br>第2編 熱と気体<br>第1章 熱と物質  | (知) 等速直線運動や単振動においてはたらく力や速度、加速度について理解している。<br>慣性力を含めたつりあいの式を立てることができる。<br>ケプラーの法則や万有引力の式を理解している。<br>熱量の保存について理解し、式を立てることができる。  |               |    |   |    |    |
|                       |  | (思) 等速円運動や単振動に必要な力について説明できる。<br>慣性力と他の力の違いについて理解し、説明できる。<br>温度や熱容量、比熱について言葉で説明できる。  |               |    |   |    |    |
|                       |  | (学) 単振動の周期と質量や糸の長さの関係を調べるための実験に意欲をもって参加しようとしている。<br>慣性力の向きや大きさについて興味を持ち、慣性力を考える物体の運動について理解しようとしている。<br>比熱を調べる実験に意欲をもって参加しようとしている。   |               |    |   |    |    |
| ～3学期<br>学年末考査         | 総合物理①<br>第2編 熱と気体<br>第2章 気体のエネルギーと状態変化<br><br>総合物理②<br>第3編 波<br>第1章 波の性質<br>第2章 音<br>第3章 光   | (知) 理想気体の状態方程式を用いることができる。<br>気体が面に力を及ぼすことから圧力の式を導くことができる。<br>波の発生原理や基本事項を理解している。<br>ドップラー効果の式を用いて観測者が聞く音の振動数を求めることができる。   |               |    |   |    |    |
|                       |  | (思) 平均運動エネルギーと絶対温度の関係について説明できる。<br>気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる。<br>波の基本事項について説明できる。   |               |    |   |    |    |
|                       |  | (学) 気体の圧力、体積、温度を変化させるとき、これらの様子にどのような関係が成り立っているか考察しようとしている。<br>気体分子がもつマイクロな量とマクロな量について興味関心を持っている。<br>正弦波を数式で表す方法について理解しようとしている。<br>光や音などの身近な波の現象に興味を持ち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。  |               |    |   |    |    |
| ～年度末                  |  |   |               |    |   |    |    |
| 使用教材<br>(教科書・副<br>教材) | 教科書：「総合物理①」「総合物理②」(数研出版)<br>資料集：「新課程フォトサイエンス物理図録」(数研出版)<br>問題集：「セミナー物理基礎+物理2024」(第一学習社)<br>「進研WINSTEP」(Learns)   |   |               |    |   |    |    |
| 学習方法                  | 授業中における課題と復習に重点的に取り組むこと。予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること。定期的に小テストや課題を課し、評価する。  |   |               |    |   |    |    |
| 評価方法                  | (知) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(思) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割<br>(学) 調査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割   |   |               |    |   |    |    |

| 教科      | 理科   | 科目(単位数)  | 化学(3) | 学年 | 2 | 類型 | 理系 5・6・7組 |
|---------|--|--|-------|----|---|----|-----------|
| 学習目標    | 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力と態度を身につける。 |  |       |    |   |    |           |
| 評価基準    | 知識・技能  | ①定期考査の知識・技能：6割 ②小テスト：2割 ③各課題：2割  |       |    |   |    |           |
|         | 思考・判断・表現   | ①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②小テスト・ワークシート：2割 ③各課題：2割  |       |    |   |    |           |
|         | 主体的に学習に向かう態度   | ①定期考査：4割 ②小テスト・ワークシート：3割 ③各課題：3割   |       |    |   |    |           |
| 期間      | 単元(学習内容)   | 学習の到達目標  |       |    |   |    |           |
| 1学期中間考査 | 2編2章<br>電池と電気分解  | 【知】 化学反応とエネルギーについての実験などを通して、電池、電気分解の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 電池、電気分解について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 電池、電気分解について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                 |       |    |   |    |           |
|         | 1章1章<br>物質の状態  | 【知】 物質の状態とその変化についての実験などを通して、状態変化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 状態変化について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 状態変化について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                          |       |    |   |    |           |
|         | 1編2章<br>気体の性質  | 【知】 物質の状態とその変化についての実験などを通して、気体の性質の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 気体の性質について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 気体の性質について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                       |       |    |   |    |           |
|         | 1編3章<br>溶液の性質  | 【知】 溶液と平衡についての実験などを通して、溶解平衡および溶液とその性質の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 溶解平衡および溶液とその性質について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 溶解平衡および溶液とその性質について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 |       |    |   |    |           |
| 1学期期末考査 | 1編4章<br>固体の構造  | 【知】 物質の状態とその変化についての実験などを通して、固体の構造の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 固体の構造について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 固体の構造について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                       |       |    |   |    |           |
|         | 2編1章<br>化学反応と熱・光   | 【知】 化学反応とエネルギーについての実験などを通して、化学反応と熱・光の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 化学反応と熱・光について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 化学反応と熱・光について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。              |       |    |   |    |           |
|         | 3編1章<br>化学反応の速さ  | 【知】 化学反応と化学平衡についての実験などを通して、反応速度の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 反応速度について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 反応速度について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                           |       |    |   |    |           |
|         | 3編2章<br>化学平衡   | 【知】 化学反応と化学平衡についての実験などを通して、化学平衡とその移動の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 化学平衡とその移動について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 化学平衡とその移動について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。            |       |    |   |    |           |
| 2学期中間考査 | 1編4章<br>固体の構造  | 【知】 物質の状態とその変化についての実験などを通して、固体の構造の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 固体の構造について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 固体の構造について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                       |       |    |   |    |           |
|         | 2編1章<br>化学反応と熱・光   | 【知】 化学反応とエネルギーについての実験などを通して、化学反応と熱・光の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 化学反応と熱・光について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 化学反応と熱・光について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。              |       |    |   |    |           |
|         | 3編1章<br>化学反応の速さ  | 【知】 化学反応と化学平衡についての実験などを通して、反応速度の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 反応速度について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 反応速度について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                           |       |    |   |    |           |
| 2学期期末考査 | 3編2章<br>化学平衡   | 【知】 化学反応と化学平衡についての実験などを通して、化学平衡とその移動の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 化学平衡とその移動について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 化学平衡とその移動について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。            |       |    |   |    |           |
|         | 3編3章<br>水溶液中の化学平衡  | 【知】 化学反応と化学平衡についての実験などを通して、電離平衡の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 電離平衡について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 電離平衡について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                           |       |    |   |    |           |
|         | 5編1章<br>有機化合物の特徴と構造  | 【知】 有機化合物についての実験などを通して、その基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 有機化合物について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 有機化合物について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                                |       |    |   |    |           |
| 学年末考査   | 5編2章<br>炭化水素   | 【知】 有機化合物についての実験などを通して、炭化水素の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。<br>【思】 炭化水素について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。<br>【感】 炭化水素について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。                               |       |    |   |    |           |
|         | 使用教材(教科書・副教材)  | 教科書：「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」(東京書籍)、副教材：「2024セミナー化学基礎+化学(第一学習社)」  |       |    |   |    |           |
| 学習方法    | 授業・復習のサイクル(教科書や問題集の基本問題を自分で解けるようになるまで取り組む)。  |  |       |    |   |    |           |
| 評価方法    | (知) 定期考査・確認テスト・章末テスト(思) 定期考査・実験プリント(レポート)・課題プリントなど(感) 確認テスト・課題や授業への取り組み状況等                     |  |       |    |   |    |           |

|      |   |                     |       |    |   |    |      |
|------|---|---------------------|-------|----|---|----|------|
| 教科   | 体育  | 科目（単位数）             | 体育（3） | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
| 学習目標 | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力の育成を目指す。 |                     |       |    |   |    |      |
| 評価基準 | 知識・技能   | ①定期考査（知識）②実技テスト（技能） |       |    |   |    |      |
|      | 思考・判断・表現  | ①学習シート ②授業観察        |       |    |   |    |      |
|      | 主体的に学習に向かう態度  | ①授業観察 ②学習シート        |       |    |   |    |      |

| 期間   | 単元（学習内容）               | 学習の到達目標  |
|------|------------------------|--|
| 1 学期 | 体づくり運動<br>（ラジオ体操、青年体操） | 【知】 体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関連していることを理解する。<br>【思】 仲間との話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けること。<br>【態】 体づくりの運動の学習に自主的に取り組もうとすること。   |
|      | ダンス                    | 【知】 いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることを理解する。<br>【技】 リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。<br>【思】 作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け仲間に伝えること。<br>【態】 ダンスの学習に自主的に取り組もうとすること。   |
|      | 水泳（平泳ぎ）                | 【知】 水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることを理解する。<br>【技】 手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。<br>【思】 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。<br>【態】 水泳の学習に自主的に取り組もうとすること。  |
|      | 球技                     | 【知】 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。<br>【技】 ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。<br>【技】 ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。<br>【技】 ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。<br>【思】 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。<br>【態】 球技の学習に自主的に取り組もうとすること。 |
|      | 体育理論                   | 【知】 運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害について理解する。  |
| 2 学期 | ダンス                    | 【知】 いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズムカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることを理解する。<br>【技】 リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。<br>【思】 作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えること。<br>【態】 ダンスの学習に自主的に取り組もうとすること。  |
|      | 球技                     | 【知】 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。<br>【技】 ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。<br>【技】 ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。<br>【技】 ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。<br>【思】 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。<br>【態】 球技の学習に自主的に取り組もうとすること。 |
|      | 陸上競技<br>（長距離走）         | 【知】 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。<br>【技】 自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ったり、タイムを短縮したり、競争したりできる。<br>【思】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。<br>【態】 陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。   |
|      | 体育理論                   | 【知】 スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツの技能の上達過程について理解する。  |
| 3 学期 | 球技                     | 【知】 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。<br>【技】 ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。<br>【技】 ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。<br>【技】 ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。<br>【思】 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。<br>【態】 球技の学習に自主的に取り組もうとすること。 |
|      | 体育理論                   | 【知】 運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方を理解する。  |

| 教科                    | 体育  | 科目（単位数）  | 保健（1） | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
|-----------------------|---|--|-------|----|---|----|------|
| 学習目標                  | 保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力の育成を目指す。 |  |       |    |   |    |      |
| 評価内容                  | 知識・技能   | ①定期考査の知識：7割 ②保健ノート等の提出物：3割   |       |    |   |    |      |
|                       | 思考・判断・表現  | ①保健ノート 思考・判断・表現：5割 ②課題研究レポート、発表 思考・判断・表現：5割  |       |    |   |    |      |
|                       | 主体的に学習に向かう態度  | ①観察：5割 ②保健ノート等の提出物：5割  |       |    |   |    |      |
| 期間                    | 単元（学習内容）  | 学習の到達目標  |       |    |   |    |      |
| 1<br>学期               | 思春期と健康  | 【知】思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。その際、これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できるようにする。<br>【思】生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
|                       | 結婚生活と健康   | 【知】結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにするとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解できるようにする。また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できるようにする。また、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解できるようにする。<br>【思】生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。 |       |    |   |    |      |
|                       | 加齢と健康   | 【知】中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することを理解できるようにする。また、高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて理解できるようにする。<br>【思】生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
|                       | 労働災害と健康   | 【知】労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量に変化してきたことを理解できるようにする。また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解できるようにする。<br>【思】生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
|                       | 働く人の健康の保持増進   | 【知】働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする。働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図ることが重要であることを理解できるようにする。<br>【思】生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようにする。   |       |    |   |    |      |
| 2<br>学期・<br>3<br>学期   | 環境と健康   | 【知】人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚染、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようにする。<br>【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
|                       | 食品と健康   | 【知】人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であることや、食品衛生に関わる活動の重要性を理解できるようにする。<br>【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
|                       | 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関   | 【知】我が国の保健・医療制度について理解したり、地域の保健・医療関係の活用や医薬品の制度とその活用について理解できるようにする。<br>【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
|                       | 様々な保健活動や社会的対策   | 【知】我が国では、健康を支えるために健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。<br>【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
|                       | 健康に関する環境づくりと社会参加  | 【知】自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基いた、健康に関する環境づくりが重要であることを理解できるようにする。<br>【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。  |       |    |   |    |      |
| 使用教材<br>(教科書・<br>副教材) | 教科書：現代保健体育（大修館）、副教材：現代保健体育ノート   |  |       |    |   |    |      |

| 令和6年度(2024年度) 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス |  |   |        |    |   |    |      |
|-----------------------------------|--|---|--------|----|---|----|------|
| 教科                                | 芸術   | 科目(単位数)   | 書道Ⅱ(2) | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
| 学習目標                              | 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。          |   |        |    |   |    |      |
| 評価基準                              | 知識・技能  | ①ワークシート(知識):約3割 ②作品(技能):約7割   |        |    |   |    |      |
|                                   | 思考・判断・表現   | ①ワークシート(鑑賞):約5割 ②ワークシート(表現の工夫):約5割  |        |    |   |    |      |
|                                   | 主体的に学習に向かう態度   | ①ワークシート:約5割 ②活動の様子、提出状況など:約5割   |        |    |   |    |      |
| 期間                                | 単元(学習内容)   | 学習の到達目標   |        |    |   |    |      |
| 1<br>学期                           | オリエンテーション  | (学) 自らの感性を高め、書の伝統と文化に親しもうとしている。   |        |    |   |    |      |
|                                   | 篆書<br>泰山刻石   | (知) (技能) 古典に基づく効果的な表現、変化や調和等による全体の構成の技能を身に付ける。<br>(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫し、相手に伝えることができる。<br>(学) 主体的に漢字の書の創造的な学習活動に取り組もうとしている。   |        |    |   |    |      |
|                                   | 篆書<br>石鼓文  | (知) (技能) 古典に基づく効果的な表現、変化や調和等による全体の構成の技能を身に付ける。<br>(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫し、相手に伝えることができる。<br>(学) 主体的に漢字の書の創造的な学習活動に取り組もうとしている。   |        |    |   |    |      |
|                                   | 隷書<br>礼器碑  | (知) (知識) 漢字の書を構成する様々な要素、古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。<br>(知) (技能) 古典に基づく効果的な表現、変化や調和等による全体の構成の技能を身に付ける。<br>(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫し、相手に伝えることができる。<br>(学) 主体的に漢字の書の創造的な学習活動に取り組もうとしている。  |        |    |   |    |      |
| 2<br>学期                           | 隷書<br>曹全碑  | (知) (知識) 漢字の書を構成する様々な要素、古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。<br>(知) (技能) 古典に基づく効果的な表現、変化や調和等による全体の構成の技能を身に付ける。<br>(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫し、相手に伝えることができる。<br>(学) 主体的に漢字の書の創造的な学習活動に取り組もうとしている。  |        |    |   |    |      |
|                                   | 漢字仮名交じりの書の鑑賞   | (知) (知識) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の特質とその歴史等について理解する。<br>(思) 作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって捉えることができる。<br>(学) 主体的に創造的な鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。   |        |    |   |    |      |
|                                   | 文化祭の作品制作<br>写真と書   | (知) (知識) 書体や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、書の伝統と文化について理解する。<br>(知) (技能) 古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和などによる全体の構成の工夫の技能を身に付ける。<br>(思) 表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫している。<br>(学) 主体的に漢字の書の創造的な学習活動に取り組もうとしている。                            |        |    |   |    |      |
|                                   | 文化祭の作品制作の鑑賞  | (思) 作品の価値とその根拠、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書のよさや美しさを味わって深くとらえる。<br>(学) 主体的に漢字の書の創造的な学習活動に取り組もうとしている。  |        |    |   |    |      |
| 3<br>学期                           | 草書   | (知) (知識) 漢字の書を構成する様々な要素、古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解する。<br>(知) (技能) 古典に基づく効果的な表現、変化や調和等による全体の構成の技能を身に付ける。<br>(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫し、相手に伝えることができる。<br>(学) 主体的に漢字の書の創造的な学習活動に取り組もうとしている。  |        |    |   |    |      |
|                                   | 仮名の書の臨書<br>①いろは(単体)<br>②三色紙(散らし書き)   | (知) (知識) 線質や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本の書の伝統と文化について理解する。<br>(知) (技能) 古筆に基づく基本的な用筆・運筆、線質を生かした表現をするための技能を身に付ける。<br>(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古筆や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。<br>(学) 主体的に仮名の書の幅広い学習活動に取り組もうとしている。          |        |    |   |    |      |
|                                   | 仮名の書<br>仮名の書の創作  | (知) (知識) 線質や書風と用筆・運筆との関わり、線質、字形、構成などの要素と表現効果や風趣との関わり、日本の書の伝統と文化について理解する。<br>(知) (技能) 古筆に基づく基本的な用筆・運筆、連綿と単体、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。<br>(思) 知識や技能を得たり生かしたりしながら、古筆や書風に即した用筆、運筆、字形、全体の構成を構想し工夫し、相手に伝えることができる。<br>(学) 主体的に仮名の書の幅広い学習活動に取り組もうとしている。 |        |    |   |    |      |
|                                   | 使用教材<br>(教科書・<br>副教材)  | 教科書:「書Ⅱ」(光村図書)、chromebook   |        |    |   |    |      |
| 学習方法                              | 授業、グループワーク、実技  |   |        |    |   |    |      |
| 評価方法                              | (知) 作品、ワークシートなど<br>(思) ワークシート(鑑賞)、ワークシート(表現の工夫)など<br>(態) ワークシート、活動の様子、提出状況など |   |        |    |   |    |      |

| 令和6年度（2024年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス |  |  |        |    |   |    |      |
|-----------------------------------|--|--|--------|----|---|----|------|
| 教科                                | 芸術   | 科目（単位数）  | 音楽Ⅱ（2） | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
| 学習目標                              | 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。       |  |        |    |   |    |      |
| 評価基準                              | 知識・技能  | ①実技テスト：約7割 ②小テスト：約3割                               |        |    |   |    |      |
|                                   | 思考・判断・表現   | ①実技テスト：約7割 ②小テスト：約3割                               |        |    |   |    |      |
|                                   | 主体的に学習に向かう態度   | ①小テスト：約5割 ②活動の様子、提出、出席状況など：約5割                     |        |    |   |    |      |
| 期間                                | 単元（学習内容）   | 学習の到達目標  |        |    |   |    |      |
| 年度初～1学期中間<br>考査                   | 【歌唱】詩が表す情景や心情を大切に歌おう   | (知) ・曲想と歌詞の内容とのかかわりを理解して歌う。                        |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (知) ・自分なりのイメージで、リズム、速度、強弱などの要素の働きを生かして歌う。          |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (思) ・合唱活動に関心を持ち、歌詞の内容や曲想を生かして声部の役割を意識して歌う。         |        |    |   |    |      |
| 1学期中間～期末<br>考査                    | 【器楽】ギターの弾き語り挑戦してみよう<br>【鑑賞】舞台芸術を楽しもう   | (知) ・ギターの音色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、自分で弾きながら歌う。     |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (知) ・オペラやミュージカル、バレエそれぞれの表現の特徴を理解する。                |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (思) ・物語の情景や登場人物の情景が、どのように音楽に表現されているかを理解する。         |        |    |   |    |      |
| ～2学期中間<br>考査                      | 【歌唱】声を重ねて美しい響きを追求しよう   | (知) ・全体の響きに調和させて歌唱している。                            |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (思) ・各声部のバランスや調和に気をつけて、声の出し方やフレーズなどの表現を工夫する。       |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (学) ・曲想と歌詞の言葉の意味とのかかわりを理解し表現を工夫しようとしている。           |        |    |   |    |      |
| 2学期中間～期末<br>考査                    | 【歌唱】歌曲に挑戦してみよう   | (知) ・歌曲にふさわしい発声法や、レガート唱法を身に付けて歌う。                  |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (知) ・曲想と歌詞の内容とのかかわりを理解する。                          |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (思) ・旋律とピアノかかわりを意識し、ふさわしい表現で歌う。                    |        |    |   |    |      |
| 2学期期末～3学期学<br>年末考査                | 【器楽・歌唱】我が国の伝統音楽への理解を深めよう   | (知) ・我が国や郷土の伝統音楽における曲種の違いによる特徴を理解する。               |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (知) ・和楽器の音色や奏法を理解し、基本的な奏法を身につけて演奏する。               |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (思) ・三線の音色や奏法を生かし、表現を工夫して演奏する。                     |        |    |   |    |      |
| 3学期<br>学年末考査～年度末                  | 【歌唱】音楽の世界観を広げよう<br>【歌唱】ポピュラー音楽を歌おう   | (知) ・世界のそれぞれの地域に伝わる音楽の特徴と文化的・歴史的背景などのかかわりについて理解する。 |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (知) ・多様な音楽美を受け入れ、意見を交換し理解を深める。                     |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (思) ・曲想と歌詞が表す情景や心情とのかかわりを理解する。                     |        |    |   |    |      |
|                                   |  | (学) ・自分なりのイメージをもち、音楽を形づくっている要素の働きを生かして歌おうとしている。    |        |    |   |    |      |
| 使用教材<br>(教科書・副教材)                 | 教科書：「音楽ⅡTutti+」（教育出版）  |  |        |    |   |    |      |
| 学習方法                              | 個人またはグループワーク   |  |        |    |   |    |      |
| 評価方法                              | 学期末成績＝授業内テスト（80％）＋平常点（20％）<br>授業内テスト：歌唱テスト・器楽テスト<br>平常点：授業参加度、発問、学習プリント、課題提出 |  |        |    |   |    |      |

| 教科                | 英語   | 科目(単位数)   | 英語コミュニケーションⅡ<br>(文系4・理系3)  | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
|-------------------|--|---|--|----|---|----|------|
| 学習目標              | 外国語の習得を通して生徒の人的成長を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。<br>基礎・基本事項を大切に、確かな読解力・表現力を身につける。  |   |  |    |   |    |      |
| 評価基準              | 知識・技能  | ①定期考査の知識・技能：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割    |  |    |   |    |      |
|                   | 思考・判断・表現   | ①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割 |  |    |   |    |      |
|                   | 主体的に学習に向かう態度   | ①定期考査：4割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：3割          |  |    |   |    |      |
| 期間                | 単元(学習内容)   |   | 学習の到達目標  |    |   |    |      |
| 1学期               | Lesson 1: A Swedish Grill's Discoveries in Japan   |   | 【知】補語になる分詞のSVOC(Cが分詞)と補語になる分詞(SVC)の意味や構造について理解できる。<br>【思】海外の視点から見た日本の不思議について書かれた英文を理解し、日本の看板や標識が抱える問題点や改善方法について書くことができる。<br>【学】自分が驚いた日本文化について、ペアで伝え合うことができる。                                 |    |   |    |      |
|                   | Lesson 2: A Message from the Emperor Penguins  |   | 【知】比較級を使用した最上級の表現や未来完了形、比較を使用した構文の意味や構造について理解できる。<br>【思】コウテイペンギンの生態について書かれた英文を理解し、自分の関心ある動物とその動物から学んだことについて書く事ができる。<br>【学】気候変動の影響により絶滅の危機にある動物について、簡単な語句を使って説明しようとする。                        |    |   |    |      |
|                   | Lesson 3: Tokyo's Seven-minute Miracle   |   | 【知】強調のための倒置やto不定詞とともに使われるit、節とともに使われる形式目的語のitの意味や構造について理解できる。<br>【思】新幹線の清掃員の仕事の様子とその仕事に対する考えについて書かれた英文を理解し、日本が誇れることについて書くことができる。<br>【学】先進的な日本の技術や製品について、自分の考えを伝えることができる。                     |    |   |    |      |
|                   | Lesson 4: Seeds for the Future   |   | 【知】付帯状況を表すwithを使用した構文や使役動詞の意味や構造について理解できる。<br>【思】タネの保全のための取り組みについて書かれた英文を理解し、固定種の利点についてF1種と比較しながら情報や考えをやり取りすることができる。<br>【学】日本の食料自給率について、情報や自分の考えを書いて伝えようとする。                                 |    |   |    |      |
| 2学期               | Lesson 5: Language Change over Time  |   | 【知】感想・意見・理由などを尋ねる疑問詞で始まる疑問文、同格のthatの意味や構造について理解できる。<br>【思】時間とともに変化する言葉について書かれた英文を読み、英語または日本語における言葉の変化の実例について書いて伝えようとする。<br>【学】日本語として使用されている英語を一つ選び、その単語の元々の意味と日本語での使われ方について、ペアでやり取りすることができる。 |    |   |    |      |
|                   | Lesson 6: Gaudi and His Messenger  |   | 【知】受動態の分詞構文やifを使わない仮定法の意味や構造について理解できる。<br>【思】ガウディと外見悦郎さんについて書かれた英文を理解し、建築家、彫刻家としてのそれぞれの考えについて概要を捉えることができる。<br>【学】訪れてみたい日本や世界の建築物について、自分の考えを話して伝えようとする。                                       |    |   |    |      |
|                   | Lesson 7: Letters from a Battlefield   |   | 【知】副詞節を導く複合関係代名詞や完了不定詞の意味や構造について理解できる。<br>【思】戦場から手紙について書かれた英文を読み、自分にとって特別な人に伝えたいことについて、複数の段落からなる文章で書くことができる。<br>【学】戦場からの手紙を読んだ感想について、ペアで伝え合うことができる。  |    |   |    |      |
|                   | Lesson 8: Edo: A Sustainable Society   |   | 【知】注意すべき関係代名詞の用法や独立分詞構文の意味や構造について理解できる。<br>【思】江戸時代の持続可能な社会について書かれた英文を読み、必要な情報を読み取り、概要を把握できる。<br>【学】日常生活の中で「もったいない」と思うことについて、自分の考えを伝え合うことができる。  |    |   |    |      |
| 3学期               | Lesson 9: Biodiesel Adventure: From Global to Glocia   |   | 【知】完了形の分詞構文や強調構文の意味や構造について理解できる。<br>【思】山田周生さんの取り組みについて書かれた英文を読み、山田さんの意見に対する自分の考えを書いて伝えようとする。<br>【学】日本のエネルギー消費における問題点とその解決策について、自分の考えを伝え合うことができる。   |    |   |    |      |
|                   | Lesson 10: Our Future with AI  |   | 【知】過去についての推量やas ifを使った仮定法の意味や働きを理解できる。<br>【思】AIとその活用についての英文を読み、話の概要を捉えることができる。<br>【学】人間とAIの共存のためにどのような法律が必要か、自分の考えを書いて伝えようとする。   |    |   |    |      |
| 使用教材<br>(教科書・副教材) | 教科書：「LANDMARK English CommunicationⅡ」(啓林館)、副教材：単語帳「Database4500」(桐原書店)、リスニング問題集「Hyper Listening」(桐原書店)、「Listening Coach」(い<br>いずな書店)、参考書「総合英語be」(いいずな書店) |   |  |    |   |    |      |
| 学習方法              | 予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。  |   |  |    |   |    |      |
| 評価方法              | (知) 考査・授業時の観察(ノート・レポート等)・スピーキングテスト、ライティングテスト<br>(思) 考査・授業時の観察(ノート・レポート)・ディスカッション、ディベート<br>(学) 考査・授業での観察(ノート・レポート等)・リスニングテスト                              |   |  |    |   |    |      |

|      |   |         |                    |    |   |    |      |
|------|---|---------|--------------------|----|---|----|------|
| 教科   | 英語  | 科目(単位数) | 論理表現Ⅱ<br>(文系3・理系2) | 学年 | 2 | 類型 | 全クラス |
| 学習目標 | 外国語の習得を通して生徒の人的成長を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。<br>基礎・基本事項を大切に、確かな読解力・表現力を身につける。 |         |                    |    |   |    |      |

|      |              |   |
|------|--------------|---|
| 評価基準 | 知識・技能        | ①定期考査の知識・技能：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割    |
|      | 思考・判断・表現     | ①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：1割 |
|      | 主体的に学習に向かう態度 | ①定期考査：4割 ②小テスト：1割 ③各課題・提出物：2割 ④パフォーマンステスト：3割          |

| 期間  | 単元(学習内容)                               | 学習の到達目標  |
|-----|--|--|
| 1学期 | Lesson 1: Your Interests               | 【知】 時制の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 クラブ活動や自分の趣味について、時制の表現を適切に用いて、ペアで伝え合うことができる。<br>【学】 クラブ活動や自分の趣味について、筋道を立てて書いて伝えようとする。            |
|     | Lesson 2: Your Daily Life              | 【知】 名詞句や名詞節、動名詞や不定詞の意味や働きについて理解できる。<br>【思】 流行していることや自分の興味があることについて、ペアで伝え合うことができる。<br>【学】 週末の計画について、筋道を立てて書いて伝えようとする。               |
|     | Lesson 3: Your School Life             | 【知】 助動詞の意味や働きを理解することができる。<br>【思】 掃除当番の手順について、ペアで情報のやり取りを行うことができる。<br>【学】 学校の施設の使い方についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。                       |
|     | Lesson 4: Media Literacy               | 【知】 形容詞や分詞の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 ソーシャルメディアをどう利用しているかについて、ペアで情報のやり取りを行うことができる。<br>【学】 ソーシャルメディアの注意点について、筋道を立てて書いて伝えようとする。     |
|     | Lesson 5: Helping Others               | 【知】 形容詞句の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 ボランティア活動についての情報を、筋道を立てて書くことができる。<br>【学】 ボランティアの経験について、他者に分かりやすく話して伝えようとしている。                  |
| 2学期 | Lesson 6: Introducing Your Town        | 【知】 関係代名詞や関係副詞の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 町の魅力や観光スポットについて、ペアで情報のやり取りを行うことができる。<br>【学】 自分の町の紹介文についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとしている。        |
|     | Lesson 7: Languages of the World       | 【知】 副詞の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 日本の方言について、他者と情報や意見のやり取りを行うことができる。<br>【学】 消滅の危機にある言語についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。                   |
|     | Lesson 8: Imagining the Future         | 【知】 副詞句の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 未来の社会についての情報を、グループ内で発表することができる。<br>【学】 未来の社会についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。                         |
|     | Lesson 9: Happiness and Stress         | 【知】 副詞節の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 幸せを感じるタイミングについて、ペアで情報をやり取りすることができる。<br>【学】 ストレス解消について、筋道を立てて書いて伝えようとする。                        |
|     | Lesson 10: Comparing Countries         | 【知】 比較表現の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 データから読み取れることについての情報を、ペアでやり取りすることができる。<br>【学】 データから読み取れることについての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。           |
|     | Lesson 11: Cultural Diversity          | 【知】 仮定法の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 「自分がもし日本のリーダーだったら」について、ペアで伝え合うことができる。<br>【学】 世界の問題に対する解決策について、筋道を立てて書いて伝えようとする。                |
| 3学期 | Lesson 12: Japanese Customs            | 【知】 認識の表現、要求や必要を表す表現、話法の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 外国の友人にすすめる日本のものについて、ペアでやり取りすることができる。<br>【学】 日本の習慣へ変化についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。 |
|     | Lesson 13: Population Issues           | 【知】 存在や変化を表す表現の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 少子化の原因と影響について、グループ内で発表することができる。<br>【学】 少子化対策についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。                  |
|     | Lesson 14: Rights and Equality         | 【知】 使役動詞や知覚動詞の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 ジェンダーや人権問題について、ペアで伝え合うことができる。<br>【学】 人権問題の解決策について、筋道を立てて書いて伝えようとする。                      |
|     | Lesson 15: Think Globally, Act Locally | 【知】 無生物主語構文の意味や働きについて理解することができる。<br>【思】 水の大切さについて、グループ内で発表することができる。<br>【学】 SDGsの目標達成についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。                     |

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 使用教材<br>(教科書・<br>副教材) | 教科書：「be English Logic and Expression II Clear」(いいずな書店)、副教材：参考書「総合英語 be」(いいずな書店)、問題集「Clear Grammar Book II」(いいずな書店)、英文法・語法問題集「Engage」(いいずな書店)     |
| 学習方法                  | 予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。  |
| 評価方法                  | (知) 考査・授業時の観察(ノート・レポート等)・スピーキングテスト、ライティングテスト<br>(思) 考査・授業時の観察(ノート・レポート等)・ディスカッション、ディベート、スピーキングテスト、プレゼンテーション<br>(学) 考査・授業での観察(ノート・レポート等)・リスニングテスト |